

14時46分

11年前、私は南会津の中学校に勤務していました。あの日は、中学校の卒業式でした。午前中で式が終了し、卒業生を見送りました。その後、学校の近くの公民館を会場に、卒業生と保護者と先生方とで卒業を祝う会を開催しました。昼食をとりながら、思い出に残るシーンをまとめたビデオやスライドを見たり、参加者のお話を聞いたり、楽しく時は過ぎていきました。

まもなく会が終了するというタイミングで地震が起きました。時計の針は、14時46分を指していました。最初は、やや強めの揺（ゆ）れでしたが、避難するほどではなく、みんなで様子をみていました。「おやっ、長いな」と思った途端（とたん）です。今まで経験したことがない尋常（じんじょう）ではない揺れがきました。「逃げろ！」などという指示がなくてもみんな素早く避難しました。「これはただ事ではない」と誰もが思ったのです。*尋常ではない 異様（いよう）だ。途方（とほう）もない。

中学3年生と大人だから、自分たちで行動できました。小学校では、どうだったのでしょうか。小学生は、まだ学校にいる時間帯です。どの小学校も校庭に避難しました。訓練ではありません。この日は気温が低く、雪が舞っていました。泣き出す子どももいたでしょう。寒かったでしょう。

皆さんは、2歳から3歳だったのでしょうか。あの大きく激しい揺れの記憶は残ってはいないかもしれません。あるいは、何となくこわかったという感覚は残っているのかもしれません。近くの大人たちが、皆さんを守ってくれたのだと思います。

その後のことは、成長した後に、テレビの映像などを通して知ったことと思います。建物の崩壊（ほうかい）、津波、原子力発電所の爆発、放射線の拡大、多くの人たちが故郷を離れる様子などです。今では中学生ですから、どの出来事も理解できるでしょう。そして、考えることもできるでしょう。

あれから11年が経過し、今年の3月11日は、中学校の卒業式でした。あのときと同じです。その後も、大きな地震が何度か起きています。3月16日（水）夜の地震もそうです。かなりの揺れでした。中には、東日本大震災をもたらした大地震の余震（よしん）というものもありました。10年経っても余震がくるのです。地球規模のエネルギーには人の力など立ち向かえるものではありません。

あのとき以来、福島は「フクシマ」となりました。広島が「ヒロシマ」となるのと同じです。2011年3月11日以来、福島は、国際的、世界的な場所となってしまったのです。

私たちに何ができるかという、3月11日、14時46分からの出来事を忘れずに、いつまでも心に刻（きざ）むことです。それが、福島で生きる人間の使命です。